

# act globally! act locally!



海外を体験できるチャンス  
がたくさんある大学です。

Smart and Human

常翔学園

摂南大学 

外国語学部

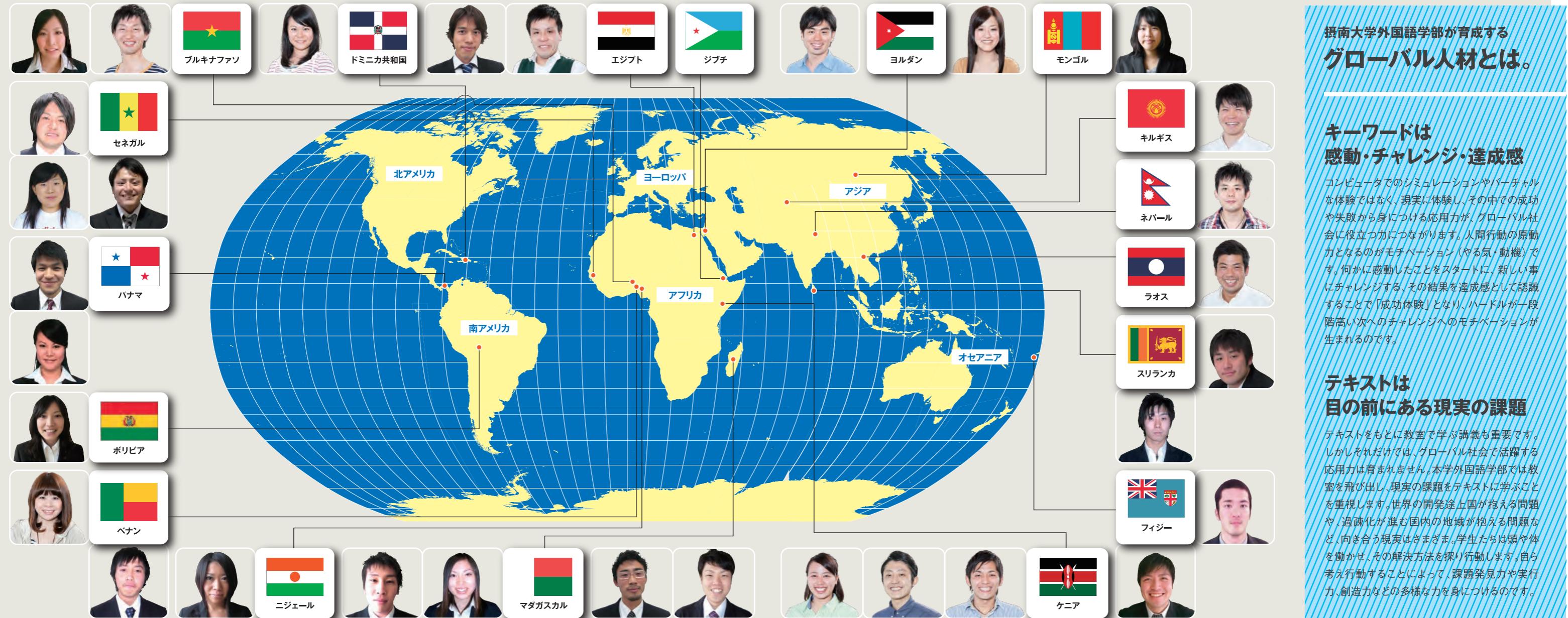
青年海外協力隊に  
在学中に合格した先輩たち

# 摂南大学から世界へ、わくわくが続々と。

地球上には自分のものさしではかり切れないことがたくさんあり、

それらに出会った「わくわく」で、人は一回り成長するのです。

外国语を話せるだけでなく、言葉や文化、心の壁をもこえてコミュニケーションできる力をもつ、それが、本学外国语学部がめざすグローバル人材です。さまざまな体験型学習を通じた学びで、世界に通用する骨太な力を育成しています。青年海外協力隊派遣への取り組みもその一つです。



## 摂南大学外国语学部が育成する グローバル人材とは。

### キーワードは 感動・チャレンジ・達成感

コンピュータでのシミュレーションやバーチャルな体験ではなく、現実に体験し、その中の成功や失敗から身につける応用力が、グローバル社会に役立つ力につながります。人間行動の原動力となるのがモチベーション（やる気・動機）です。何かに感動したことをスタートに、新しい事にチャレンジする、その結果を達成感として認識することで「成功体験」となり、ハードルが一段階高い次のチャレンジへのモチベーションが生まれるのであります。

### テキストは 目の前にある現実の課題

テキストをもとに教室で学ぶ講義も重要です。しかしそれだけでは、グローバル社会で活躍する応用力は育まれません。本学外国语学部では教室を飛び出し、現実の課題をテキストに学ぶことを重視します。世界の開発途上国が抱える問題や、過疎化が進む国内の地域が抱える問題など、向き合う現実はさまざま。学生たちは頭や体を働かせ、その解決方法を探り行動します。自ら考え行動することによって、課題発見力や実行力、創造力などの多様な力を身につけるのです。



エジプト各地を劇団で巡演！

日本人って本当に幸せ？



大丈夫！が成功的合言葉。



ベナンで図工や音楽を指導。



ジャグリングで笑顔に！



ケニアで知った創意工夫の喜び。



子どもと遊び、学んだ日々。



ケニア人スタッフの言葉に感動！



異文化の国では、まず行動！



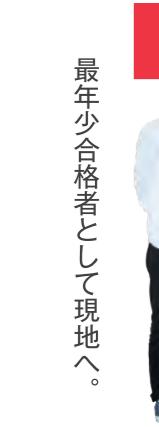
ネパールで視野が広がった！



ケニアの大地を夢見て。



最年少合格者として現地へ。



キルギスに赴任予定です。先輩方のアドバイスは心強い味方。得意なギター・カホン（打楽器）を生かして子どもたちと音楽で会話をします。

2015年7月からケニアで活動することになりました。少女たちの技術・情操教育に携わります。

首都カイロの貧困地帯で子どもたちに音楽・美術などを指導。さらに有志を集めて旗揚げし、人形劇などをエジプト各地で公演しました。

2009年3月卒業 川島 彰允さん  
大阪市立思齊特別支援学校教諭  
（有）ピックワンウェスト所属

アフリカのジブチで文化活動を担当、若者を対象に日本語教室も行いました。貧困の現実に触れ、日本を客観的に見つめた貴重な時間でした。

2010年3月卒業 吉村 優さん  
わかくさ南洋がい者福祉作業所勤務

パナマで女性支援につながる民芸品開発に従事し、「大丈夫！」という大らかな気持ちで成果を得ました。その後、ドミニカ共和国へも赴任。

2009年3月卒業 小林 由香里さん  
南丹市立園部中学校教諭

エジプトのジブチで文化センターで活動最初は戸惑いましたが、指導を重ねるうちに子どもたちの創造力が芽生えたことを実感。大きな喜びに。

2012年3月卒業 菊川 太郎さん  
常翔学園高等学校講師

ラオスの子ども文化センターで活動しました。ジャグリングを子どもたちに指導し、夢中になって練習した時間はかけがえのない宝物です。

2009年3月卒業 菊川 太郎さん  
常翔学園高等学校講師

少年サッカーチームを結成。でもボールがない。モノが豊富にある日本との違いを痛感しましたが、手作りボールは大切な思い出です。

2010年3月卒業 野島 悠平さん  
枚方市中学校講師

ヨルダンの乳児院で「遊びを通して学び」をテーマに活動。試行錯誤しながら子どもたちに折り紙やアート遊びを指導し、触れ合いました。

4年次 枝本 麻央さん  
大阪府/東豊中高校出身  
農中市小学校教諭内定

言語や文化の壁に苦労しましたが自分にできることを地道に実践。ケニア人の同僚に「きみがいて良かった」と言われ自信につながりました。

4年次 柏木 優さん  
京都府/京都南高校出身  
(株)寺岡精工勤務

アフリカのブルキナファソで、雨季の道路修補を自分一人でスタート。「道がよくなった」と感謝され、行動の大切さを実感しました。

4年次 宇都宮 眸さん  
大阪府/浜陵高校出身  
(株)リバティ内定

首都カトマンズから100キロ以上離れたところで保健衛生活動に従事。この経験を生かし、就職後は開発途上国の観光産業に貢献します。

4年次 齋藤 洋平さん  
島根県/三刀屋高校出身  
(株)エイチ・エヌ内定

青年海外協力隊は、中学時代から夢。2015年の7月からケニアで活動することになりました。少女たちの技術・情操教育に携わります。

3年次 畑柳 風花さん  
愛知県/聖霊高校出身

2015年7月からケニアで活動することになりました。少女たちの技術・情操教育に携わります。

3年次 石田裕貴さん  
島根県/三刀屋高校出身

## Step1 地域貢献・ボランティア活動の実践! 『PBL学生プロジェクト』、『ボランティア・スタッフ』

# 過疎化が進むまちに 元気を吹き込む。

過疎・高齢化が進む和歌山県南部のすさみ町は、「ケンケンかつお」や「イノシシ」と「ブタ」を掛け合わせた「イノブタ」など地域資源をPRするイベントや、自然活動体験「忍者キャンプ」、夏の奇祭「佐本川柱松祭り」などを開催してきましたが、担い手不足で年々開催が困難となっていました。そこで摂南大生が立ち上がり、「PBL学生プロジェクト」(授業科目)や「ボランティア・スタッフ」(課外活動)によって、町の活性化に取り組んでいます。2013年春も総勢約60名の学生が「すさみケンケンかつお祭り」の運営をお手伝いしました。



続き、学生のステージライブ。来場者と一緒に「世界に一つだけの花」を歌うなど、会場を盛り上げました。

### 予想外の課題に気づく。

学生が屋台を出すテント市場もお昼から慌ただしさが増し行列ができるはじめます。一番の人気は地元特産の「イノブタ串」。すさみ町運営の屋台の前には長蛇の列。それを見た学生がすかさず助っ人に入り、列を整理して串焼きをサポートする姿が印象的でした。

### voice



1年次のときから活動に参加。何度も通ううちに町民の温かい人柄と美しい海の景色になり、すさみ町での生活を決意。内定先のすさみ町役場では摂南大学生の活動を支援する立場になります。  
すさみ町役場内定



「すさみ町活動」のモットーはそれぞれの役割を自覚して自主的に動くこと。活動は全学年が一緒に作って上げていくもの。そこから協調性やリーダーシップ、思いやりなどが生まれ、自分自身も成長できたと思います。



一方、ベースキャンプである町から借り受けている廃校施設でもがんばる学生の姿、「給食のおばちゃん」と呼ばれる炊事係の女子学生です。「みんなはくたくたに疲れて戻ってきます。だからこそおいしいごはんをたべさせてあげたい」とリーダーの新原ななこさん(外国語学部3年次)。会場係、裏方係が一体となって一つのプロジェクトを完成させる。そこから得られるものは大きいといえるでしょう。

### 学生を支えるのも学生。

静かな町は一変、賑やかな空気に包まれました。午前10時の開場を待ち切れずにお客さんが続々と来場。駐車場スタッフは早くも汗だくになって対応に追われていました。「今年も来てくれたんやね」と笑顔で学生たちを迎えてくれる町民も多く、信頼の絆が育まれていることがうかがえます。祭りのオープニングでは、「ケンケンかつお娘」(外国語学部4年次の大川知紗紀さんと田内美紗希さん)による「かつおの海宣言」に

## Step2 國際貢献への足がかり! 『国際貢献実習』

# 感動! チャレンジ! そして 成功体験を達成感に変える。



フィリピン第二の都市ダバオ、0~18歳までの孤児が暮らす「ハウスオブジョイ養護施設」で実施される『国際貢献実習』を履修した3人の学生。さまざまな体験や交流を通して国際経験を養い、国際貢献への意欲を高めたようです。

### それぞれの目標を胸にフィリピンへ。

**松村** 祖母から戦争体験を聞き、平和で幸せな自分に気づきました。いつか恵まれない子どもに役立ちたいと思うようになりました。

**塙見** 最初は、海外で活動する先輩方の姿に憧れしていました。それが次第に、自分も海外へ飛び出したい人の役に立ちたいと思うようになったのです。



**榎並** 得意な英語を海外で試してみたい!とにかくいろいろなことを経験し、自分に何ができるのかを見つけたいと思いました。

### 子どもたちと暮らし理解を深める。

**松村** 施設では約40名の子どもたちと一緒に時間を作ります。誰かが背中をタッチしたとたんに鬼ごっこになったり、言葉がなくても心は通じることを感じます。相手の気持ちを理解することがコミュニケーションでは大切だと気づきました。

**榎並** 私も同感。物も情報も乏しいダバオは日本とは比較にならないほど不便。ですが町を歩けば誰もが笑顔で声をかけてくれます。私たちは幸せを感じる心が鈍くなっているのかも?と感じました。恵まれた環境に感謝すると同時に、困っている人のために何かしたいという思いが高まり、青年海外協力隊にチャレンジしよう!と思うようになりました。

**塙見** 私は初めての海外、慣れない環境で、最初はコミュニケーションの方法に悩みました。ある男の子から「ぼくはノエル。名前を覚えてね」と手紙をもらったことから、名前を呼ぶこともコミュニケーションの基本だと、教えられました。

### 体験が次のステップへと、意欲を高める。

**松村** 私が一番心に残ったことは、ダバオで最も貧困だと言われる地区でのフィールドワーク。「あなたは幸せですか?」という質問に、ほとんどの人が「幸せ」と答えたことが印象的でした。家族と一緒に暮らしていることが何よりの幸せだという、あたりまえのことを再認識しました。

**榎並** 私も同感。物も情報も乏しいダバオは日本とは比較にならないほど不便。ですが町を歩けば誰もが笑顔で声をかけてくれます。私たちは幸せを感じる心が鈍くなっているのかも?と感じました。恵まれた環境に感謝すると同時に、困っている人のために何かしたいという思いが高まり、青年海外協力隊にチャレンジしよう!と思うようになりました。

**塙見** 小学校教員をめざしていた私は、この体験を経て、もっと広い視野で子どもの幸せを考えるように。たとえば「開発途上国に子どもの遊び場をつくるには?」といったテーマにも興味がわいています。

(左から) 3年次 松村 侑子さん  
京都府／網野高校出身

2年次 榎並 裕緒さん  
大阪府／阪南高校出身

3年次 塙見 千晶さん  
大阪府／八尾翠羽高校出身

## Step3 青年海外協力隊活動レポート 世界の現実と向き合い成長する!

# 汗、涙、挫折、感動…。 青年海外協力隊のすべてを語る座談会。



エジプト、ジブチ、ヨルダン、ラオス、パナマ…。青年海外協力隊として世界各地で奮闘した先輩たちが、赴任を控える後輩と語り合いました。

うちに「自分にもできるかもしれない」と思いはじめたんです。

**坂本** 青年海外協力隊を経験した先輩方のカッコよさに憧れました。夢にチャレンジして何かを達成して帰ってきた人の言動には、自信を感じられませんでした。

**吉村** 自分に何ができるのか。  
現地で大きな壁にぶつかる。

吉村 現地に赴任すると、受け身ではダメだと痛感します。アフリカ・ジブチのコミュニティセンターに赴任し、サッカーなどを指導しましたが満足できませんでした。そんなある日、若者が「日本語を勉強したい」と言ったのです。僕も彼らに異文化の存在を知ってほしいと考え、日本語教室を開くことにしました。最初こそ少人数でしたが次第に受講者も増え、最後は約20人に。これも自発的に動いたからこそできました。

**小林** 私は、青年海外協力隊など無縁の世界だと思っていました(笑)。ところがボランティア・スタッフズ(外国語学部生が中心に発足したボランティア活動組織で、現在は摂南大学公認の文化系クラブの一つ)の立ち上げに携わり、さまざまな活動をする

在エジプト邦人に声をかけ文化交流を企画。さらに彼らと劇団を設立し、エジプト各地を巡演しました。赴任施設で凱旋公演をしたときは、子どもたちが感動して集まってくれて…。あの感動は今も忘れられません。

**吉村** 憧れ、葛藤したからこそ得られる感動と達成感。

**坂本** ヨルダンは貧富の差が激しく、上流階級は東南アジア人を使用人として雇っています。私は、乳児院で幼児を指導するために派遣されているのに、アジア人に対する先入観から難用ばかり。ある日、国際電話で妹に不満を漏らしたのですが、「お姉ちゃんに悪いところはないの?」と言われて目が覚めました。それからは、明るく接しながらも自分の意見を根気強く主張。少しずつ指導員として信頼されるようになりました。

**菊川** 僕はラオスの子ども文化センターで、タイ文化の流入によって存在感が薄れつつあるラオス文化を守るために読書推進活動をスタートさせました。また、子どもたちにジャグリングの指導も。県の





イベントに向けて本気で教えたところ、本番前日に「明日はがんばろう!」と彼らだけで円陣を組んでいたんです。その真剣な姿を見たとき、僕の心が伝わったと涙がこぼれました。

**小林** 私も最初はパナマの生活に慣れませんでした。それが、民芸品製作の先住民女性グループと出会ってから意識が変わったのです。観光客に受け入れられるデザインを提案したところ大ヒット商品になりました。また東日本大震災のときには、自分のことのように心配してくれて携帯電話が鳴りやまないほど…。パナマの人々の温かさに感動しました。

**吉村** 子どもたち100人に将来の夢をたずねたことがあるんです。すると医師や運転士など憧れの職業を次々に答えてくれました。失業率7割を超える過酷な環境にあっても夢を抱く彼ら。豊かな国に生きる自分は、夢に挑戦しないでどうすると触発されましたね。



2009年3月卒業 川島 彰允さん  
大阪市立思斎特別支援学校教諭  
エジプト(2006~2008年)に赴任

4年次 坂本 麻央さん  
大阪府／東農中高校出身  
農中市小学校教諭内定  
ヨルダン(2009~2011年)に赴任

3年次 畑柳 風花さん  
愛知県／聖霊高校出身  
2015年からケニアに赴任予定

2009年3月卒業 菊川 太郎さん  
常翔学園高等学校教諭  
ラオス(2010~2012年)に赴任

2009年3月卒業 小林 由香里さん  
南丹市立郡部中学校教諭  
パナマ(2009~2011年)・ドミニカ共和国(2012年3ヶ月間)に赴任

2010年3月卒業 吉村 優さん  
わかくさ南障がい者福祉作業所勤務の傍ら  
俳優としても活躍  
ジブチ(2007~2009年)に赴任

6名のコメントは冒頭  
ページでも紹介しています。

**坂本** 先日、高校で青年海外協力隊の経験を話す機会があったのですが、「自分も行ってみたい」「世界の人を笑わせる漫画を描きたい!」と興味をもってくれました。今後は、小学校の先生として子どもたちの世界を広げたいですね。

## 広い視野と豊かな心で それぞれの道を開く。

**小林** 私は、横浜国立大学の大学院に進学し、ラテンアメリカ支援について研究することになりました。「発展途上国に行くなんてどんでもない」と思っていた1年次の自分が嘘のようです。

**菊川** 高校で英語を教えていますが、自分の経験をもとに海外の生活や文化を生き生きと伝えることができると感じています。僕の授業を通じて世界に関心をもち、自分の人生を切り開いてほしい…それが願いです。

**畔柳** 先輩方の「苦労したからこそ、楽しかった」という言葉が印象に残っています。不安がないと言えずになりますが、それ以上に現地で経験することのすべてが楽しみです。2015年の7月にはケニアへ。全力を尽してチャレンジし、大きく成長して帰ってきます!

## 青年海外協力隊とは。 Japan Overseas Cooperation Volunteers

外務省所管の独立行政法人国際協力機構(JICA)が派遣する海外ボランティアで、2年間にわたり開発途上国の人々の生活向上に貢献します。募集年齢は20~39歳で選考に合格すれば学生でも可能です。活動分野は計画・行政、農林水産、人的資源、保健・医療、社会福祉など多岐にわたり、応募時に手伝える部門、技術・資格を登録すると各国の要請に応じて選ばれます。

語学力・技術・健康診断審査による一次選考と面接審査が主になる二次選考で合否が決まります。語学力審査では、TOEIC®で330点、TOEFL®で410点、実用英語技能検定(英検)3級が最低基準とされていますが、これらスコアが高いほど派遣において活動の幅が広がります。

## TOPIC

### 就職面で優遇! JICAボランティア経験を評価する自治体が増加。

青年海外協力隊などの活動やコミュニケーション能力などを評価し、職員採用試験で特別に配慮する選考制度を設置する自治体が増えています。開発途上国での地域づくりにかかり、日本の地域づくりへの関心を高めた帰国者には地方自治体職員をめざす人も多く、このような制度を持つ自治体でも毎年一定の帰国者が採用されています。

# グローバル人材へのステップ!

たくさんの学生が青年海外協力隊への現役合格を果たしています。その理由には、社会貢献とボランティア活動を経て、段階的に国際貢献への思いを育み、実践力を高めていく体験型学習にあります。学生たちは、着実に力と自信をつけて世界へ羽ばたいています。

## Step1

### 社会貢献・ボランティア活動の実践

過疎地域の活性化活動を行い、企画力・コミュニケーション能力・実践力を養い、社会貢献やボランティア活動のノウハウを身につける。



## Step2

### 国際貢献への足がかり

開発途上国(フィリピン)で、外国語(英語)を使いながら、Step1で培ったノウハウを実践。国際貢献活動に取り組む。



## Step3

### 青年海外協力隊受験▶合格

任地で2年間の実践的な国際協力活動を行う。さまざまな困難や出会いを通して、真のグローバル人材としての実力をつける。



### 任期満了帰国

海外で身についたグローバルな視野と行動力を活かして、卒業論文の執筆と、就職活動に取り組む。



就職・大学院進学

step to the future

## 可能性と夢にチャレンジ!

「現地」の視点で考え、行動する真のグローバル人材をめざそう。

摂南大学は、学生が成功体験を育む教育環境(学外フィールド)として和歌山県すさみ町と連携し相互の協力関係を深めてきました。日本には多くの過疎地がありますが、すさみ町も例外ではありません。若者層を中心とした人口流出による過疎化現象、高齢化の進展など大きな課題を抱えています。しかし、そこにはまだ豊かな自然、昔ながらの伝統、文化などが残され貴重な資源の宝庫となっています。

学生たちは、廃校となった小学校を拠点に地域の資産についての見方を変え、使い方を変えて地域再生に挑戦しています。自然活動体験学習「忍者キャンプ」では、「忍者工作教室・忍者ゲーム・子ども忍者による鬼退治」などを実施。また夏の奇祭として知られ、220年以上も昔から伝わる伝統行事でありながら、地元保存会の解散により消滅寸前だった「佐本川柱松祭り」も継承しています。

そのほかにも高齢者の困りごとを解決するため、雑草刈り、水路掃除、一人暮らしのお宅の見守り活動などを行っています。これらの地域活動で身についたノウハウを土台に、英語をコミュニケーションツールとして活用するのがフィリピンを舞台にした『国際貢献実習』です。

「人、物、金、情報」が慢性的に乏しい開発途上国での実習は、「すさみ町活動」の海外バージョンではありません。歴史・文化・言葉の壁を超えるためにグローバルな視点で考え、行動することが求められる実践型フィールドワークです。そしてすべての集大成が、国家プロジェクトJICAボランティア『青年海外協力隊』としての活動です。

摂南大学は、現役大学生の青年海外協力隊合格実績において日本トップクラスになりました。大学を休学して派遣するなどサポート体制も万全です。卒業生たちは帰国後、大学院進学、公務員、教員(小・中・高校)、商社など第一志望の分野で活躍しています。自分の「夢」を現実化する、そんなチャンスと可能性にチャレンジしてみましょう。

message

外国語学部  
浅野 英一 教授

